

09-25 2025 年度第 1 回メディアデザイン教育課程編成委員会

日時: 2025年9月25日(木) 11時00分~12時00分

場所: YIC情報ビジネス専門学校 2号館 学生ホール、オンライン

参加者: 本廣 敏孝様 (一般社団法人 山口県情報産業協会 専務理事・事務局長)

佐鹿 健治様 (大村印刷株式会社 ODI 事業部 副部長)

村田 良輔様 (株式会社スワークス 代表取締役)

河津 道正 (校長)

小田 政江 (副校長)

三船 龍 (事務長補佐)

森野 茂弘 (教務課長)

豊田 菜摘 (教務課長補佐)

辻村 忠幸 (メディアデザイン科 学科長)

概要

- メディアデザイン科の今年度第 1 回教育課程編成委員会では、来年度の学科名・コース区分変更の方針、在籍・募集状況、検定実績と目標、就職内定状況、前回指摘事項への対応(検定合格率向上・AI 教育の統合)が報告された。検定は再受験を含め目標達成に近づいており、就職はクリエイティブ系・県内志向が強い傾向が確認された。AI リテラシー強化として「生成 AI パスポート」の受験予定が示された。
- 本会議では、メディアデザイン系教育の運営報告と成果、就職支援の取り組み、機材導入の効果、次年度の学科改編に伴う課題について共有・協議が行われた。学生の AI 活用と基礎力育成のバランス、ポートフォリオ強化、外部連携・コンペ成果が確認された。2026 年度の学科統合(情報デザイン科)に伴うコース連携・差別化戦略、内定後の学生モチベーション維持が論点となった。
- メディアデザイン課の教育課程編成委員会では、美術系・デザイン系学生の就職実態と学校の強みの PR、インターンシップやアルバイト型の実践機会の検討、AI 活用の教育上の順序や方針について議論した。長期的なキャリア継続や離職率への懸念が共有され、ポートフォリオの質と課題解決志向の評価を重

視する意見が一致した。次回委員会は「来年の 2 月から 3 月あたり」に開催予定とされた。

主要トピック

- 学科名・コース区分の変更方針(来年度入学生から)
 - 校長より、来年度入学生から学科名・コース区分の変更を実施予定である旨を共有。中身は現行を発展させる方針で、委員からの意見を反映したいと述べた。
 - 具体的な名称・区分の詳細は本発言内では提示なし。
- 在籍・募集状況の報告
 - 現在の在籍者は合計 35 名(1 年生 20 名、2 年生 15 名[年度当初 16 名のうち 1 名退学])。
 - 来年度入学見込みは現時点で 14 名で、「だいたい 20 名前後」を見込む旨の見通しが共有された(現時点の確定値は 14 名)。
- 検定実績と目標(現 2 年生の取得率ベース)
 - 右側に示す目標合格率は全国平均値を参考として設定。実績は「取得率」(一発合格ではなく再受験含む)で評価。
 - 再受験を粘り強く指導した結果、目標である「100%」に概ね到達。後半の一部科目では 2 回目未受験者がいるため率が暫定的に低下しているが、就職内定・卒業までに全取得 100%を目指す方針。
 - 改善策として、教員だけでなく優秀学生の支援を取り入れ、個別指導を強化。これにより合格率が上がったとの評価。
- 就職内定状況と傾向
 - 現時点で 2 年生 15 名中 11 名が内定、その後さらに 1 名決定し、約 7 割 5 分の内定率。
 - 職種はクリエイティブ系が多く、勤務地は県内が多い傾向。入学当初は県外希望も多かったが、都市部の通勤環境を体験後に県内志向へ転じた例が見られた。
- 前回委員会からの課題と対応
 - ウェブクリエイター検定の合格率向上策
 - 1 回目合格率は全国平均より「テンパー(10%)程度」高いが、目標「100%」に届かない点が課題。
 - 再受験の計画的実施と、優秀学生のサポートを組み合わせた個別指導で、ほぼ全員合格へ改善。
 - AI 技術の教育への統合
 - 学生の関心を引く最新 AI サービス(例:「何のバナナ」など画像変換系)の紹介を通じ、触れる機会を拡大。

- 基礎リテラシー強化として「生成 AI パスポート」を 2024 年 10 月末に受験予定。AI の基本知識とリテラシー習得を狙う。
- 教育方針(AI 活用と基礎スキルの両立)
 - 初期段階では AI に依存せず、基本操作・基礎スキルの習得を優先する方針が示された。基礎力定着後に段階的に AI 機能を紹介し、効率化と最新技術への触れ合いを促す流れで授業を進行している。
 - AI を教えると学生が即依存しやすい傾向があるため、授業運営で過度な依存を抑制する配慮を行っている。
 - 意見として、AI を積極的に解放し「自分で学ぶ力」を育てるアプローチ(学習モードの活用、情報抽出・要約・発想支援の工夫)が提案された。最終的な良し悪しの判断(デザインのジャッジ能力)は人間が担うべきとの見解が示された。
- コンペ・受賞・外部案件の実績
 - T シャツデザインコンテストで全国販売数「3 位」となり「優秀賞」を受賞。今年の夏に販売実績が反映され、前回報告の「入賞」から更新された。
 - 山口県広告大賞(学生部門)で「準グランプリ」を受賞。作品は公園のフェンスを撮影・加工したもの。
 - 甲府航空祭で、戦闘機の機体ロゴが学生作品として片側に採用・プリントされ、航空ショーで展示された。
 - 外部依頼の制作実績として、24 時間テレビの CM 企画制作、ツールド山口ワンのエイド各店動画制作、山口県警の動画編集・防犯啓発ポスター制作を完了。ポスターは警察署等で掲示予定。
- 学内横断プロジェクトへの参画
 - ホテルブライダルオブザブライダルショー、ビューティーモードのヘアメイクショーなど他学科イベントに写真・動画撮影や制作で協力。学生同士の話し合いによる共同制作の体験を積極的に提供している。
- 就職活動支援の具体策
 - 初の卒業年度に向け、キャリアサポート室と連携し、個別指導や過去就職先の斡旋を実施。
 - 授業内評価としてポートフォリオの完成までを組み込み、各学生にポートフォリオサイトの作成を支援。これを基に就職活動を展開している。
 - 意見として、資格よりもポートフォリオの重要性が高まっており、1 年次からサイト構築・作品制作を継続することで、転職等にも耐える自己証明手段になると提案があった。
- 機材導入と授業改善の効果
 - MacBook 中心から iPad を併用する体制に刷新し、1 年生・2 年生ともに全員が購入・授業で活用。iPad の直感的デザインと PC での細部調整を組み合わせ、デザインの幅が広がったとの教員評価が得られている。

- 教室視認性の課題に対し、二画面運用や PC・タブレット併用で後方学生の理解度格差の軽減を図っている。
- 次年度(2026 年度入学生)に向けた学科改編と課題
 - 情報ビジネス科とメディアデザイン科を統合し「情報デザイン科」としてコース分割。ビジネス系は「イノベーションコース」、デザイン系は「メディアデザインコース」とし、定員は両方合わせて「40 名」。
 - イノベーションコースは理系転換で内容を大幅に変更予定。メディアデザインコースは大枠を踏襲しつつ、改善点を加える方針。
 - 課題として、2 コース間の共同授業・共通科目の設計、コースの人材像に適した科目配置が挙げられた。共通科目例として PBL 活動やビジネスマナー等の社会人基礎力が言及された。
 - 他校との差別化では、近隣の芸術系校(例:芸短)との比較において「美術」対「デザイン」の違いを強調し、AI と絡めた強みの伝え方を検討する意向。オープンキャンパスでの訴求策について意見を求めている。
 - 内定後の学生モチベーション低下への懸念が示され、残り半年を有意義に過ごすための取り組み(検定取得に限定されない成長機会)についてアイデアを求めている。
- AI 活用の現状データと企業側の受容
 - 統計として、10 代の「70%」が AI を使用し、用途の「5 割超」が文書・レポート作成、次点が「話し相手」であるとの共有があった。企業側にはカルチャーショックがあり、今後入社してくる世代とのマインド差を埋める必要性が指摘された。
 - 目指すべきは、AI の生成結果に対する適切な評価・判断力の育成。自動化ツール(例:リファイ、イメージ便利など)を活用し得る人材の重要性も示唆された。
- 学生層の実態と就職 PR の必要性
 - 芸大デザイン科において「デザイナーを目指す学生は 3 割程度」との実感が共有され、学内には美術系色の強さが残っているとの指摘があった。
 - 授業では美術的制作が重視されがちで、ビジネス志向のデザイン教育の印象が弱いという認識。
 - 就職実績の明確な PR が重要であり、「卒業後にどのような企業に就職しているか」を示すことで学校選択の決め手になり得るとの意見。
 - 企業側は「見た目・作品・会話の印象」で判断する傾向があり、ポートフォリオや作品提示が効果的。
- 大学・専門学校の教育と就職の接続
 - 4 年制大学では学習時間の配分により「圧倒的なポートフォリオ作成の時間が不足」しがちで、学び中心になる傾向がある。
 - そのため、在学中から作品やポートフォリオを整える支援が重要。

- 企業側は「話してみてもやりそうだと感じれば引っ張る」ため、作品提示とコミュニケーション力の両立が評価に直結する。
- キャリア継続と離職率への懸念
 - 山口県内の専門学校出身者が再就職に至った事例を踏まえ、「一旦就職しても継続できるか」「離職率」が気がかりとの声。
 - 在学中から「転職・再就職時の対応」を頭に入れておく支援が望ましい。
 - 「仕事のレベルが下がる方向に逃げる」のではなく、「より高みを目指す」思考を促す教育の重要性が示された。
- インターンシップ・アルバイト型の実践機会
 - 助産権のメンバーから「切り出せる業務を学生にアルバイト的に任せる」仕組みの模索が提案された。
 - インターンシップとも授業とも異なる、収入も伴う実践機会を来年度予算に織り込むことを検討したい意向。
 - 企業側の受け入れスタンスとして「インターンシップ受講は印象が良い」「複数社でアクションした方が学生に有利」との見解。
 - 実施時期は「1 年生から」受け入れがあり、2 年生は就活で多忙。
 - 期間は「1 週間」程度の短期から「1 ヶ月」程度、あるいは「週に何日」などの長期型まで多様。
 - 一部職種では「ほとんど外出」のため受け入れ困難だが、士業や議員事務所の長期インターンは良い経験例として言及。
 - 県内就職を促進する観点で、インターンとは異なる切り口の実務経験提供に前向き。
- ポートフォリオの評価観点
 - 作品を並べるだけでなく「なぜその作品を作ったのか」「課題・考え方・工夫点」を明示することを重視。
 - 1 枚の英語(文章)中心の説明でも、課題抽出と解決プロセスが伝われば評価対象になり得るとの意見。
 - 企業側は「ツッコミどころで会話が成立する」ことを評価し、人間的成長や思考の深さを見ている。
- AI 活用の教育的順序と方針
 - AI の使用を止める意図はなく「積極的活用を推奨」しつつ、学習順序を誤ると「楽な手段に偏り、基礎的なコーディングや細作業を避ける」傾向が生まれる懸念が示された。
 - 先に簡易ツールを教えるか、基礎を自力で身につけた後に AI を導入するか、教え方の順番が論点。
 - 一方で「AI が担う領域は人間の仕事でなくなる」ため、コピペ的制作よりも「課題抽出と解決というデザインの本質」に重点を置く教育が必要との見解。

- 作品単体よりも「課題・思考・解決プロセス」を明確化したポートフォリオが有効という方向性が共有された。
- 次回予定
 - 2026年2月～3月予定

未解決事項・リスク

- 学科名・コース区分の具体内容が未提示であり、変更後の詳細(名称、カリキュラム、広報時期)が不明。
- 来年度入学見込みは現時点で 14 名に留まっており、目標とされる「20 名前後」との乖離がある可能性。
- 検定の一部で 2 回目未受験者が残っており、全取得 100%達成には今後の受験運営が必要。
- 学科統合後の共同授業・共通科目の具体設計が未確定である。
- イノベーションコースの詳細カリキュラムが未確定のため、両コース連携の枠組みが不明確。
- 内定後の学生モチベーション低下が懸念され、残り半年の学習設計・評価軸が明確でない。
- 他校(特に近隣芸術系)との明確な差別化ポイントとメッセージが固まっていない。
- 教育と AI 活用の順序設計が未確定で、基礎力と効率のバランスをどう取るかが未解決。
- 離職率や就職継続支援の具体策が不明確で、在学中のキャリアレジリエンス教育の体系化が必要。
- インターンシップ受け入れの可否・期間・職種別対応が企業ごとにばらつきがあり、統一的な方針や情報提供が不足。

アクション項目

- [] 生成 AI パスポートを 2024 年 10 月末に受験実施(対象学生への案内・実施運営)
- [] 次回の委員会で、来年度の新たな教育課程・計画(学科編成後)資料を添付して共有する
- [] 他校との差別化(美術とデザインの違い、AI 活用の強み)の訴求内容について、意見を収集しオープンキャンパス施策を検討する
- [] 助産権側で、学生向けアルバイト型の実践機会の枠組み案を作成し、来年度予算への組み込みについて関係者と相談する

1. 学科改編・コース設計の確定遅延による募集リスク：来年度および 2026 年度統合後の「学科名」「コース区分」「カリキュラム（共同授業・共通科目含む）」「広報開始時期」が未確定で、委員意見反映プロセスも不透明。差別化戦略（美術 vs デザイン、AI 活用の強み）の設計とオープンキャンパスでの訴求内容の具体化が進んでいないため、広報の着手が遅れ、志願者獲得に直接的な悪影響が生じるリスクが高い。直近で意思決定の場合、責任者、タイムライン、承認フローを明示する必要がある。
2. 募集・在籍見込みの未達と施策の不整備：来年度入学見込みが 14 名と目標「20 名前後」と乖離。広報・募集施策（ターゲット設定、メッセージ、媒体計画、出願期前イベント）の具体案・担当・スケジュールが未整備で、実行遅延がさらなる未達を招く恐れ。週次の KPI（問い合わせ数、イベント参加数、出願予備登録数）を設置し、即時の施策ローンチ計画を確定させる必要がある。
3. 検定取得 100%達成に向けた再受験運営の不在：2 回目未受験者への再受験支援計画（対象者リスト、受験日程、監督体制、学習支援、リマインド・フォロー方法）が不明確。このままでは卒業までの全取得 100%の達成が遅延・未達となる可能性が高い。受験ウィンドウの設定、担当教員の割当、学習会のスケジュール、未受験者への個別連絡プロトコルを即時に整備する必要がある。
4. AI 教育方針の未確定による学習品質リスク：基礎スキル（描画・デザイン原則・ツール基礎）と AI 活用の導入順序、AI 依存抑制の運用設計が未決着。併せて「生成 AI パスポート受験」の対象範囲・日程・監督・結果回収の具体運営が不足。方針未確定のまま導入すると基礎力低下や学習バランス崩れ、資格受験漏れのリスクが高まるため、シラバスへの方針反映、評価基準、受験運営の詳細を期限付きで確定させる必要がある。
5. 就職・キャリア継続支援の枠組み不足：内定後の学生モチベーション維持策（検定以外の成長機会、評価軸）が未定で、離職率低減・キャリアレジリエンス教育（転職・再就職対応）の体系化も未確定。ポートフォリオ強化の年間運用（1 年次からの計画、中間レビュー、評価基準、指導担当）も設計不足。現状のままでは学習成果低下と就職後定着の悪化リスクが高い。年度計画、評価ルーブリック、担当割当、レビュー日程を早急に策定する必要がある。